

名前：

私の家の最寄り駅では、一人のおばあさんが営業する雑誌・新聞の販売所が朝の7時からやっている。私が階段を駆け下りる間に二、三人の会社員風の人が新聞や雑誌を買って行く。もちろん彼らは職業柄携帯電話を持っていて、そのほか、彼らは朝の情報源を新聞や雑誌の読面に求める。何故だろうか。

一度二人を話をアイト矢の上司としたことがあるが、彼の話を聞いてそれらの必要性を認識したのである。

確かに情報化社会といわれる現代では、検索エンジンや新聞社のホームページでその日のニュースを簡単に読むことができた。映画やテレビ映像、楽曲のMP3ファイルの無断使用によって各業界の利益が下がりその著作権問題が発生する一方で、新聞・雑誌の記事は各の発行者自らの手により無料で公開されているのである。その理由は簡単だ。それは、紙媒体の方も売れているからだ。

冒頭の通勤風景の例に戻ってみよう。彼ら

は毎朝超満員の電車に揺られて職場へ向かうのである。いくらインターネットでニュースが読めたとしても、電車の中でパソコンを開く人はそうはいかぬ。いや全くいかならう。ならばより小型の携帯電話をさそうだろう。まあパソコンと比べて通信速度が遅い。加えて、通勤中にトンネル等があった場合、地下鉄に乗った場合等、電波状況が悪い中では役に立たないであらう。あと、パソコンや紙面に比べて一画面の情報量が少なすぎる。このようなデメリットが、IT技術の発達で生じているのである。

もちろん、「かえり」の紙の使用量が膨大だ。などというデメリットもあるだろう。しかし社説等個人の意見も入った「ムカを省かない」、情報媒体は、自らの見識を深める上で重要である。また、パソコンや携帯と比べて、前段の理由から「お手軽」という意見もあるかもしれない。しかしこれにせよ、二つは高い限り新聞や雑誌は必要と思われる。

1800字